

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
〒602-8048 京都市上京区下立売通
小川東入ル
中西印刷株式会社（日本産業衛生学
会近畿地方会事務局支局）
発行責任者 林 朝茂（地方会長）
<http://jsoh-kinki.jp>

新たな一年の始まりに寄せて



日本産業衛生学会 近畿地方会会長 林 朝茂

厳冬の候、皆さまにおかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。近畿地方会会長を引き続き務めさせていただきます大阪公立大学大学院医学研究科産業医学の林朝茂です。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

近畿地方会は、約1500名の会員を擁し、全国の地方会の中でも特に活発な活動を展開しております。これもひとえに会員の皆さまのご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。秋の年次学術集会「近畿産業衛生学会」や春の「学術講演会」において、運営システムを新たに導入し、ハイブリッド開催を実施するなど、改革をすすめてまいりました。この改革の目的は、長期的に安定した体制を整え、会員の皆さまとともに未来を見据えた活動を展開することにあります。その結果、参加者数が飛躍的に増加し、活気に満ちた学術交流の場を提供することができました。今後もさらに運営の改革を進めてまいります。

近畿地方会では、「若手活性化プロジェクト」を通じて、次世代を担う実務者や研究者を積極的に支援しております。このプロジェクトでは、若手会員が産業保健分野での実践的なスキルを磨くためのワークショップや、疫学に関する勉強会などを開催しております。これらの取り組みにより、若手会員が専門性を高め、キャリア形成を支援し、産業保健分野での活躍の場を広げることを目指しております。また、4部会の専門領域プロジェクトなど、さまざまな活動も進行中です。

これら近畿地方会の活動は、一部の会員の皆さまによる献身的なボランティアに支えられております。一方で、近畿地方会には専従の事務員が配置されておらず、事務局業務の多くが一部の学会員の大きな負担となっております。現在の近畿地方会の運営が、こうした学会員の献身的な支えによって成り立っていることをご理解いた

ければ幸いです。この課題を解決するため、中央との協議を進めつつ、持続可能な仕組みを検討しております。

今後の主な予定としまして、2026年には、森口次郎先生と私が企画運営委員長を務める「第99回日本産業衛生学会」を開催予定です。この学会では、全国の産業保健分野に携わる方々が一堂に会し、現場の課題解決や新たな研究の方向性について議論を深める場として、最新の知見を共有する貴重な機会となることを目指しております。ぜひ多くの皆さまにご参加いただければ幸いです。

続いて、2027年には大阪で開催予定の「日本医学総会」において、産業保健関連セッションの企画を大阪府医師会とともに担うことが決定しております。このセッションでは、産業保健の重要性を広く発信するとともに、医療界との連携を深める貴重な機会を提供したいと考えております。

さらに、2028年には「第38回日本産業衛生学会全国協議会」を近畿地方会が担当予定です。この協議会では、産業保健に関する現場の具体的な課題や実践的な解決策を共有し、各地の取り組みを学び合う場とすることを目指したいと考えております。

産業保健の現場では、働く人々の健康維持と増進がこれまで以上に重要な課題となっております。同時に、新たな課題への解決策の提示や学術的視点からのエビデンスの提供も求められております。近畿地方会は、この両者を結びつけ、社会全体の発展に貢献することを使命として、引き続き活動を推進してまいります。

会員の皆さまにおかれましては、引き続き近畿地方会の活動に対して温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。本年も、皆さまとともにさらなる飛躍を目指して取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2024年度日本産業衛生学会 近畿地方会役員選挙結果報告

近畿地方会選挙管理委員会 委員長 一尾 直子

今選挙では近畿地方会の選挙人（有権者）は1226名、このうち選挙権および被選挙権保有者は1091名のため、中央選挙管理委員会から割り当てられた役員数は代議員123名でした。近畿地方会細則に従い地方会長および地方会監事は推薦および立候補を募りました。その結果、地方会長候補1名、地方監事候補2名と定数であったため、未投票当選となりました。

代議員選挙を電子投票で実施、開票作業は2024年10

月11日に行い新代議員を123名選出しました。投票率は40.9%でした。尚、同票については選挙細則に従い、くじで順位を決定しております。

理事候補4名の選出は新代議員の互選により電子投票で行い、115名より投票がありました。開票作業は2024年11月27日に行いました。なお、今回選出した理事候補者は、2025年度日本産業衛生学会総会の承認を得て理事となります。

■近畿地方会 会長 (敬称略 定員1名)

氏名	得票数
林 朝茂	無投票当選

■近畿地方会 監事 (敬称略 定員2名)

氏名	得票数
鮫島 真理子	無投票当選
森岡 郁晴	無投票当選

■近畿地方会選出 理事候補 (敬称略 定員4名)

氏名	得票数
森口 次郎	89票
林 朝茂	80票
西田 和彦	74票
井上 幸紀	68票
鈴木 純子	37票(次点)

■近畿地方会 代議員 (敬称略 定員123名)

氏名	得票数
黒木 和志郎	51票
伊藤 正人	50票
津田 由紀	45票
村田 理絵	45票
森口 次郎	41票
國枝 佳祐	40票
津田 恵理	40票
増田 大作	38票
林 朝茂	37票
深井 恭佑	37票
大塚 創平	36票
濱田 千雅	36票
藤吉 奈央子	35票
萩原 聡	35票
大上 圭子	34票
佐藤 恭子	34票

■近畿地方会 代議員 (続き)

氏名	得票数
日野 孝	33票
福田 郁巳	32票
三木 明子	31票
村嶋 美保子	31票
一尾 直子	31票
荒木 郁乃	30票
大島 由美子	30票
出雲谷 恭子	29票
豊川 彰博	29票
上原 新一郎	29票
今川 かおる	29票
喜多岡 蓮美	29票
野村 杏子	29票
坂本 史彦	29票
阪上 優	28票
猪阪 善隆	28票
益江 淑子	28票
久保田 昌詞	28票
西田 和彦	28票
天野 和代	28票
柴田 幹子	28票
鍵本 伸明	28票
鈴木 純子	27票
出口 宏美	27票
岩根 幹能	27票
中西 麻由子	27票
藤田 周弥	27票
中村 千賀	27票
木曾 真一	27票
吉田 直樹	27票
西田 典充	27票
村野 哲也	27票
清原 達也	27票
高島 義嗣	27票
櫻木 園子	27票
魏 民	26票
藤村 友子	26票

氏名	得票数
西川 佳枝	26票
三浦 克之	26票
谷池 正行	26票
山本 博一	26票
廣野 陽子	26票
平田 真以子	26票
井上 幸紀	26票
守山 敏樹	26票
原 共乃	26票
林田 千雅子	26票
宮川 秀男	26票
和田 ゆき恵	25票
岡田 潮	25票
谷口 有紀	25票
足立 真知子	25票
前田 宏明	25票
小村 江美	25票
森 雅子	25票
貝森 亜紀	25票
森田 理江	25票
今野 英一	25票
河津 雄一郎	24票
土井 泰治	24票
久保 とし子	24票
寶學 英隆	24票
脇田 祐実	24票
三宅 晴香	24票
岡本 昭夫	24票
堀内 寿美子	24票
石神 真人	24票
瀧 秀樹	23票
八木田 あけみ	23票
藤田 智子	23票
佐藤 洋	23票
伊藤 敏文	23票
中嶋 千晶	23票
小川 康子	23票

氏名	得票数
由田 克士	23票
森本 道雄	23票
吉田 俊香	23票
杉浦 徹太郎	23票
松村 泰志	23票
中田 ゆかり	23票
安田 恵理子	23票
大橋 正和	22票
白川 真紀子	22票
出口 裕彦	22票
堤 梨恵	22票
栗原 敏修	22票
橋場 昌義	22票
武田 理宏	22票
榊原 彩	22票
和久 純也	22票
坂田 泰史	22票
内山 鉄朗	22票
西田 誠	22票
川畑 真理	22票
森山 和郎	21票
木虎 孝文	21票
森脇 博	21票
吉川 貴仁	21票
石原 宗和	20票
原 達彦	20票
東 賢一	20票
南 未来	20票
橋本 克次	20票
清川 虎之進	20票
三柴 丈典	20票
小室 竜太郎	20票
伊藤 遼太郎	19票
今野 由将	19票(次点)
丸居 誉	19票(次点)
高橋 宏典	19票(次点)
米永 哲朗	19票(次点)

第 97 回日本産業衛生学会の報告

第 97 回日本産業衛生学会に参加して

兵庫産業保健総合支援センター

藤村 友子



広島で開催された第 97 回日本産業衛生学会に参加しました。今回はメインテーマで示された「変革期における産業保健」というワードのもと、産業がおかれている状況や労働者の多様性に着目したシンポジウムや講演が多く企画されていました。

印象に残ったプログラムでは、産業看護部会の「変革期における産業保健看護職の基盤づくりと新任期教育」と題されたシンポジウムです。これまで新人育成に関わっていた時期もあり、産業保健看護職に求められる資質や新人育成プログラムに関する発表には共感できる内容が多く、興味深く拝聴しました。

また私事ですが、昨年末に前職を退職し、現在は障害者雇用の現場で活動しています。学会に参加したタイミングがその職に就く直前でしたので、視覚障害がある労働者の支援に関する教育講演や職場における合理的配慮をテーマにしたシンポジウムはとても勉強になりました。これらで共通して述べられていたのは、当事者との丁寧な「対話」が重要であるということです。事業所では労働力確保のために柔軟な対応や環境整備が課題になりますが、働く人の特性に応じた支援や配慮を考える上で、職場側のサポートも必要になります。産業保健看護職としての役割を生かすには、情報収集も含めまだまだ学ぶことが多いと感じました。

学会の現地参加は 6 年ぶりでしたが、ライブで聴く講演やシンポジウムはとても新鮮でした。また、しばらくぶりの参加で驚いたのは大会アプリの便利さです。昭和世代の私は冊子がないと不安でしたが、プログラムのスケジュール管理だけでなく、講演集の確認や簡単なメモをアプリ上に残すこともできたので、スマホ一つでこと足りました。

会場では前職と一緒に働いていた保健師や産業医の先生方との嬉しい再会もあり、平和公園周辺の散策や広島グルメを含め、楽しく過ごせた 3 日間でした。

第 97 回日本産業衛生学会の報告

第 97 回日本産業衛生学会に参加して

石原歯科医院

石原 宗和



2024 年 5 月 22 日から 25 日まで、広島国際会議場・中国新聞ビルで開催された第 97 回日本産業衛生学会に参加しましたのでご報告させていただきます。

期間中は天候にも恵まれ、多くの参加者があり、会場はどこも大盛況でした。その中で、私自身、歯科医師であるため、どうしても口腔関連の会場に足が向くことになりました。

教育講演では、兵庫医科大学 主任教授 岸本裕充先生の「オーラルマネジメント CREATE によるがん治療の合併症予防」の講演がありました。

低侵襲手術など、がん治療の進歩によって職場復帰への期間が短縮されましたが、同じ手術を受けてもさまざまな要因で退院までの期間に差が生じることがあります。その要因の一つとして口腔環境の不良があります。

「周術期の口腔ケア」と言わずあえて「オーラルマネジメント」というのは専門的なケアは治療に近く、ケアだけで難しい場合には治療介入も必要であり、医科歯科連携の場面では「評価」や「調整」が重要な場合が多く、「口腔ケア」よりも「オーラルマネジメント」の方がより良いとの考えです。

口腔の機能を維持・向上できれば、早期の復帰に不可欠な「食べる」ができるはずということで、この「オーラルマネジメント」の概念について、口腔清掃 (Cleaning)、歯の欠損補綴や嚥下訓練などのリハビリテーション (Rehabilitation)、患者や他職種への教育 (Education)、的確な評価 (Assessment)、そして歯科医師しかできない治療 (Treatment) も行うことで口腔の健康が得られれば美味しく食べる (Eat, Enjoy) ことが可能となる、これらの頭文字 CREATE とし、それぞれの構成要素別に詳しくお話がありました。歯科医師として「口腔ケア」ではなく「オーラルマネジメント」の重要性を今一度考える機会を与えていただいた講演でした。

今回の学会に参加させていただき、産業衛生の現場において多職種が連携をして活動していくことの重要性を改めて認識させられたことは大変有意義でした。

関係者の皆さまに感謝申し上げます。

第72回近畿地方会学術講演会報告

第72回近畿地方会学術講演会特別講演1を拝聴して

パナソニック健康保険組合

國枝 佳祐



第72回近畿地方会学術講演会のテーマは「2024年における産業保健トピックス」でした。今回、特別講演1として、「働き方改革の現状と2024年問題」と題して、弁護士法人大江橋法律事務所の弁護士の大和 奈月先生にご登壇頂きました。

前半ではすでに施行されている、働き方改革関連法について、弁護士の立場から詳細に法規制、法的取り扱いまた、法施行後の現状について説明頂きました。後半ではまさにこの4月からのトピックスである、労働時間の上限規制が猶予されていた、事業・業務について、今後の対応・規制・課題についてご説明頂きました。特に物流問題においては、単に「自動車運転の業務」のみの課題ではなく、物流インフラを利用しているすべての事業における課題であるという視点からご説明頂いたのは印象的でした。

私は、産業保健活動において、医療、建築、物流を現在業務で担当しており、まさに2024年問題を日々課題として感じておりました。そのため、今回の講演は非常に楽しみにしておりました。また、保健活動を行う中で、非常に重要なツールである、法律を弁護士というスペシャリストの先生から御解説頂き大変ありがたい時間がありました。今回の講演で教えて頂いたこと、気づかせて頂いた事を明日からの産業保健活動に役立てていきたいと思えます。



演者：大和 奈月先生
(弁護士法人 大江橋法律事務所)

第72回近畿地方会学術講演会報告

第72回日本産業衛生学会近畿地方会学術講演会特別講演2に参加して

近畿大学医学部

予防医学・行動科学教室

東 賢一



本講演では、東京大学大学院医学系研究科社会連携講座デジタルメンタルヘルス講座特任准教授の今村幸太郎先生に、「ポストコロナ時代の職場のメンタルヘルス」の演題でご講演いただいた。最初にコロナ禍における労働者のメンタルヘルスの調査結果をいくつかご紹介いただいた。仕事上のストレスはコロナ禍で上昇したが、2022年以降は低下傾向にあるとのことであった。また、コロナ禍におけるメンタルヘルスの一次予防に関する研究では、ストレスマネジメント用に開発された心理教育情報サイト「いまここケア」を用いた心理的ストレス反応の改善効果と、このようなウェブによる心理教育介入の有効性について解説していただいた。ポストコロナ時代の職場のメンタルヘルス対策としては、世界保健機関のメンタルヘルスガイドラインをご紹介いただいた。組織、管理監督者、労働者への推奨事項とともに、認知行動療法の活用などが検討されていた。最後に職場のメンタルヘルス対策の社会実装の例として、WebサイトやLINEを用いたコンテンツなどをご紹介いただいた。会場からの質疑では、休業後のリワークに対する諸外国や日本の状況、実装戦略における経営的視点（生産性向上）の重要性などが議論された。



演者：今村 幸太郎 先生
(東京大学 大学院医学系研究科 社会連携講座
デジタルメンタルヘルス講座)

近畿産業衛生技術部会研修会報告

近畿産業衛生技術部会研修会に参加して

大阪青山大 健康科学

相羽 洋子

令和6年6月15日(土)に、KITENA 新大阪にて開催された近畿産業衛生技術部会研修会に参加いたしました。研修会では、「騒音障害防止のためのガイドライン改正を受けて」をテーマとして講演と実習が行われました。「騒音障害防止のためのガイドライン」は平成4年に制定されたガイドラインを見直して令和5年に改正されたもので、その内容と産業現場での対応についての解説、測定方法や聴覚保護具の取り扱い等についてお話をいただきました。

講演として、産業医科大学教授の東久保一朗先生から「令和5年改正「騒音障害防止のためのガイドライン」を読み解く」というテーマで、新ガイドラインの新しい測定法の追加、聴覚保護具の選定基準の明確化、騒音健康診断の検査項目の見直し等、騒音障害防止のための取り組みについて実践的なお話をいただきました。

続いて、「職場巡視に活用できる騒音測定器、聴力測定器について」と題して、リオン株式会社主任技師の中市健志先生から騒音測定器、聴力測定器を用いて実習を行っていただきました。実際の騒音作業の音を呈示してA特性音圧レベルとC特性音圧レベルの違いや、音源からの遮蔽物の有無・距離の違いなどによる音の回折や距離減衰の性質について実習し、さらに、聴力測定器を用いて耳栓のフィットテストも体験することができました。今回の研修会は時宜に合った内容であり、大変有意義な機会となりました。



第3回近畿産業歯科保健部会研修会報告

近畿産業歯科保健部会 第3回研修会

小出歯科医院

小出 紀子



日本産業衛生学会 近畿地方会 産業歯科保健部会 第3回研修会「続・歯科からの挑戦～これからの産業保健～」を2024年11月10日(日)午前10時30分から大阪府立共同参画・青少年センター(ドーンセンター)にて行いました。参加者は歯科医師・歯科衛生士をはじめ企業の産業医・保健師・看護師など30名(うち7名が非会員)でした。

今回は医療法人美和会 平成歯科クリニック院長・一般社団法人大阪府歯科医師会 理事・大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機能治療部招聘教員の小谷泰子先生にご講演いただきました。演題は「働く人々の健康管理～ドライマウス・睡眠時無呼吸・嚥下障害について～」です。1時間しか講演時間はありませんでしたが、多岐にわたる内容の講演で大変充実しておりました。

まずはドライマウスについて、問診で症状、程度を把握し、原因を探し、対処法はできることからすべてを駆使して焦らずに行うことと、丁寧な問診が大切だと思いました。次に睡眠時無呼吸症候群について、これは近年テレビでもよく聞く名前ですが実際にどのような疾患で全身への影響はどのようなものか、そしてその治療法を詳しく聞くことができました。最後に嚥下障害について、普段見ることが無い嚥下内視鏡画像を実際に見ながら説明していただき、非常にわかりやすくかつ興味深かったです。私たちは奇跡のような反射で、食物を口に運び咀嚼し咽頭から食道、胃へと運ぶことで食物を嚥下できているということを再認識しました。

小谷先生には実際の労働現場でも相談を受けるような内容について詳しくご講演いただき、質疑応答も相次ぎ、時間切れになってしまうほどでした。

今回の研修会の開催は演者の小谷先生はじめ、たくさんの方々のおかげをもちまして盛況のうち無事終了することができました。大変感謝しております。次回研修会もたくさんの方々のご参加をおまちしております。

第64回近畿産業衛生学会を開催して

第64回近畿産業衛生学会 学会長 中西 一郎
(東レ株式会社滋賀事業場健康管理センター)



年末も押し迫った昨年12月22日は少し時雨れるような天気でしたが、大きな崩れもなく8月31日に台風で延期にした第64回近畿産業衛生学会を大阪公立大医学部学舎で盛会裏に終了することができました。登壇くださいました一般演題、教育講演、基調講演、シンポジウムの演者の皆様、ご発表ありがとうございました。また準備くださった実行委員の皆様、特に大阪公立大学産業医学の教室の先生方、大変お世話になりました。そして年末の日曜にも関わりませず、多くの聴講をいただき、ご参加いただきました皆様に御礼申し上げます。

今回は「災害に立ち向かう産業保健～私たちができること～」をテーマにしました。テーマ決めは一昨年中で、能登半島地震も羽田空港の飛行機事故もまだ起こっていない時期でした。昨年の年明けに演者の人選が具体的にあって上記の2つの惨事にかかわった方々のご登壇がパッと決まった感じです。地方会の幹事のネットワークの中の自然な流れで中身が構築されていったような思いを持ちました。

午前中の一般演題は1つの会場で14題のご発表をいただきました。いつもは2会場になっていますが、代議員会等を開催する必要がなかったため時間が長く取れ、1会場で全部を聴講できました。最近多方面で取り上げられているプレゼンティズムに関して2題、また健診で測定するクレアチニンと年齢を用いて数値が導かれるCKD（慢性腎臓病）の指標のeGFRに関する演題が2題ありました。その他の10題も職域の場での実践的な研究で地方会ならではの内容ばかりでした。質疑も活発で時間が延びる傾向でしたので、座長の先生にはご苦勞おかけしましたが、聴講者の満足度も高かったのではないかと思います。

一般演題終了後に、学会長指定演題として、地方会副会長の森口先生に「産業衛生専門職の倫理要綱見直しワーキングチームの取り組み状況の報告」をご発表いただきました。これは日本産業衛生学会の「100周年ミッションと重点活動」のうち基盤事項である「時代に合った研究および実践活動の基盤となる産業衛生専門職の倫理要綱の見直し」を推進するワーキングチームの報告です。近畿からは森口先生と歯科部会の安田先生が参画しています。当該倫理要綱は広く学会員の意見を確認したうえで完成すべきものであるため、学会のwebサイトでも意見を募集しており、この機会に地方会でも会員に披露して意見を伺おうとの目論見でした。2月28日までwebサイトで意見を募集しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

そののち例年通り、優秀演題賞と若手奨励賞を選考し、前者は大阪公立大学産業医学の柴田幹子先生に、後者は

滋賀医科大学臨床看護学講座の松野文恵先生に授与させていただきました。たまたま両演題ともCKDに関するものでした。

午後は会員外の先生も多数ご参加くださいました。まず教育講演は森永謙二先生による「震災後に起こりえる石綿ばくろによる中皮腫～石綿の基本的知識」でした。石綿の種類などの基本的なことから、震災後の建物由来の石綿が人に及ぼす影響、特に中皮腫についてお話しいただきました。基調講演は産業医科大学産業生態科学研究所災害産業保健センター教授の立石清一郎先生に「災害時における健康管理システムの実装～令和6年能登半島地震の経験をもとに～」のテーマでお話しいただきました。立石先生は能登半島地震で災害産業派遣チーム(DOHAT)のリーダーとして現地に入られており、偶然も重なって所期のミッションが達成できたお話を興味深く拝聴しました。シンポジウムでは歯科医師の立場で足立平先生に「災害時の歯科保健-阪神・淡路大震災から能登地震までの29年」を、看護職の立場で白崎慶子先生に「災害対応に従事する従業員への健康支援」を、心理職の立場で廣川進先生に「惨事ストレス事案の心理職の対応例」を、それぞれご講演いただきました。お三方のご講演から共通してわかったのは、平時の時から準備をしておく、日常と非日常を切り分けない、「フェーズフリー」の考え方でした。日々の業務に生かしていきたいと思います。

その後、会場を近く中華料理店に移し、懇親会を開催しました。演者の先生方もお付き合いくださいまして、「雰囲気の良い学会ですね」とのお褒めの言葉も頂戴した次第です。

さて次回は本年11月8日土曜に天満橋のドーンセンターで、長谷工クリニックの西田和彦先生の学会長で開催されます。皆様ご予約置さくださいますようお願いいたします。



第64回 近畿産業衛生学会シンポジウムの様子

第64回近畿産業衛生学会の報告

第64回近畿産業衛生学会優秀演題賞を受賞して

大阪公大大学院医学研究科・
都市医学・産業医学

柴田 幹子



この度は荣誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究へご協力いただきました、研究参加者及び共同研究者の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本研究は、一企業の従業員約1万人を対象とした前向きコホート研究、関西ヘルスケア研究において、飲酒パターンと糸球体過剰濾過発症の関係を明らかにしました。糖尿病患者だけでなく一見健康な人々においても、糸球体過剰濾過はその後の腎機能低下や心血管疾患の発症、死亡とも関連することが報告されており、そのリスク因子を検討することは重要です。高頻度に飲酒する群では、飲酒日あたりの飲酒量が多いほど糸球体過剰濾過発症リスクは上昇しましたが、低頻度飲酒群では、飲酒日あたりの飲酒量が多い場合のみリスクが上昇し、日常の保健指導でも飲酒パターンを考慮することの重要性が示唆されました。

今回の受賞を糧に、今後も研究に真摯に取り組み、産業保健の発展に向けて一層努力してまいります。

第64回近畿産業衛生学会の報告

第64回近畿産業衛生学会若手奨励賞を受賞して

滋賀医科大学・医・臨床看護(成人)

松野 文恵



この度は若手奨励賞という荣誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係の皆様へ感謝申し上げます。

本演題では、滋賀県のスーパーマーケットの従業員の方々を対象とし、過去3年間のeGFRスロープ(eGFR値のプロットに基づく回帰直線の傾き)によるCKD発症予測力について、高血圧の有無による違いを報告いたしました。高血圧保有者において、3年間の評価で年間-5 mL以上のeGFR低下がある場合、その後のCKD発生を予測することが明らかになりました。一方で、非高血圧者ではその関連を認められませんでした。高血圧保有者については、単回測定のみではなく、eGFRの推移にも着目し、CKD疑いとなる前段階からより積極的に生活習慣改指導を行うことが有用な可能性があると考えられます。

今後も生活習慣病予防をテーマとした研究に取り組み、その成果を還元していきたいと思っております。引き続き、会員の皆様のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第64回近畿産業衛生学会の報告

第64回近畿産業衛生学会に参加して

株式会社クボタ

伊藤 遼太郎



2024年12月22日(日)に大阪公立大学医学部学舎(阿倍野キャンパス)で開催された、第64回近畿産業衛生学会に参加したので報告いたします。

本会は、同年8月の台風10号接近に伴う延期を経ての開催であり、まさにメインテーマの「災害に立ち向かう産業保健」を強く意識する参加となりました。プログラムは、教育講演、基調講演、シンポジウム、一般演題(口演)、学会長指定演題、と盛りだくさんの内容で開催されました。

環境再生保全機構の森永謙二先生の教育講演では、石綿の定義や建材の種類、規制の歴史、阪神大震災後の復興作業関連曝露等について、国際的な疫学的知見を踏まえたお話をいただきました。中でも、徹底した石綿対策を行っているEU等がある一方で、アメリカ、中国、ロシア等の一部の国は現在も石綿を取り扱っている等、国際的な対策の差が大きいことに驚きました。

また、産業医科大学災害産業保健センターの立石清一郎教授の基調講演では、能登半島地震におけるJ-SPEEDの導入及びD-OHATの活動をお話いただきました。中でも、J-SPEEDに健康状態入力フォームを盛り込むことで、支援者の健康状態をリアルタイムに把握・支援する一方で、現場の安全健康管理体制には課題があり、セーフティーオフィサー等の専門官の必要性と意義について学びました。

最後のシンポジウムでは、3名のシンポジストが、地震災害における歯科保健、産業保健のご経験及び課題、そして海上保安庁の業務における参事ストレス対策について、それぞれの立場からお話いただき、フロアーからも活発な質疑応答がなされて大いに盛り上がりました。

南海トラフ地震も懸念されるいま、阪神・淡路大震災から30年を迎え、改めて災害時対応には事前の備えが重要であると再認識するとともに、あらゆる場面に通ずる産業保健の奥深さを実感することができて大変有意義でした。

最後になりましたが、この場をお借りして本会の関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

第 64 回近畿産業衛生学会の報告**第 64 回近畿産業衛生学会に参加して**

京都府立医科大学大学院
地域保健医療疫学

松井 大輔



令和 6 年 12 月 22 日（日）、大阪公立大学阿倍野キャンパスにて第 64 回近畿産業衛生学会が開催されました。学会テーマは、『災害に立ち向かう産業保健～～私たちができること～』でした。私は歯科部会から推薦いただき、学会実行員として参加させていただきました。学会事務局長の佐藤恭子先生を中心に非常に綿密なスケジュールが生まれ、事前打ち合わせを含めた学会運営の裏側を知る大変良い機会となりました。このような経験をさせていただいた、歯科部会の安田恵理子先生、米永哲朗先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

シンポジウムでは、ときわ病院の足立了平先生が「災害時の歯科保健・医療—阪神・淡路大震災から能登地震までの 29 年」という演題で、災害時肺炎（被災者の口腔衛生および身体機能が低下して起こる誤嚥性肺炎）の予防を中心とした被災者の健康管理について講演をされました。他の 2 名のシンポジスト（保健師、臨床心理士）からは、救援スタッフの健康管理について講演がありました。救援スタッフは災害復旧のために現場に泊まり込み（約 1 か月間）、睡眠時間を削って働くことが多く、時間外労働が増加することでメンタルおよび身体的な不調をきたしやすいとのことでした。口腔衛生状態についての話はありませんでしたが、心身の不調にともない口腔ケアが疎かになるのではないかと感じました。これまで被災者の口腔衛生ばかりに目がいていましたが、災害時の口腔衛生を多面的に捉える必要性についての新しい知見を得ることができました。講演以外でもロビーや懇親会で産業衛生に携わる他職種の先生と意見交換ができ、さらに視野が広がったと感じました

学会スタッフという立場での参加で緊張しましたが、産業衛生における歯科の重要性についての知識をアップデートすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

第 34 回日本産業衛生学会全国協議会の報告**第 34 回日本産業衛生学会全国協議会に参加して**

大阪ガス株式会社

Daigas グループ健康開発センター

谷池 正行



今年度の日本産業衛生学会全国協議会は「一歩先の産業保健を切り拓け！」と題して、千葉県木更津市での現地開催に加えて、オンデマンド配信も行われました。私は現地参加しましたが、会のテーマ同様、新しい概念や技術の活用に関するセッションに加え、模擬裁判のセッションにも参加しました。

デジタルツールの活用として、順天堂大学の福田洋特任教授から、国際学会における産業保健での AI 活用や日本語版デジタルヘルスリテラシー尺度（DHLI）の有用性についてご紹介いただきました。また、社内向け動画作成の方法について、安倉沙織保健師（ライフコンサルティングスタジオ）が実例を提示しながら解説していました。

産業保健における AI や DX の可能性に関するセッションでは、群馬大学の内田満男教授が、AI 技術を産業保健に活用する上で、利益や成果が見えにくく、その方法が分からないという課題を抱える中で、人の行動の把握や職場巡視時の画像の評価に AI を活用する取り組みを紹介していました。北里大学の渡辺和弘講師は、外部の正確な情報を活用によりハルシネーション（事実に基づかない情報の生成）を抑えながら専門領域で大規模言語モデルを活用できることをお話しされていました。

模擬裁判では、発達障がい者の特性を持つ労働者への合理的配慮や化学物質の自律的管理といった、複数の今日的な産業衛生上の課題が盛り込まれた事例について、使用者側や労働者側の産業医、弁護士が議論し、聴講者も自らの立場で判断を求められ、臨場感あふれる内容でした。

新たに取り入れられた考え方や技術に加え、十分な解決方法が見いだせていないテーマに関する議論も含まれており、「一歩先の産業保健を切り拓く」知見に触れることができ、大きな刺激を受け、自身の活動や判断に活かせる貴重な機会となりました。ご講演、運営に携わられた多くの先生方、関係者の皆様深く感謝いたします。

第29回近畿産業医部会研修会報告

第29回近畿産業医部会研修会のご報告

大阪市 総務局

出雲谷 恭子

2024年11月9日(土)大阪産業創造館にて「産業保健におけるアルコール対策」をテーマに近畿産業医部会研修会を開催し、98名の方に参加いただきました。2月には厚生労働省から「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」が公表され、飲酒に対する再認識が求められる昨今、アルコール関連問題啓発週間に合わせるようなタイミングでの開催でした。

基調講演とシンポジウムの三席目では、ひがし布施クリニック名誉院長の辻本士郎先生から、アルコール健康障害における最新の知見や、産業保健分野に期待される取り組みについてご講演をいただきました。辻本先生からは患者様の村井誠様をご紹介いただき、貴重な体験談をお聞きすることもできました。びっくりするようなエピソードばかりで、ご家族のご苦勞はいかばかりであったでしょうか。京都大学精神神経科の磯部昌憲先生からは、産業医として、定期健康診断におけるアルコール関連問題のスクリーニング、AUDITの活用その他、様々な視点からのアルコールと健康についての啓発を繰り返した取り組みや、家族も巻き込んだ好事例のご紹介もいただき、大変参考になりました。

至らないことばかりの幹事でしたが、演者の先生方、ご協力いただきました先生方、本当にありがとうございました。



近畿地方会産業精神衛生研究会報告

近畿地方会産業精神衛生研究会報告

一般財団法人
近畿健康管理センター

木村 隆



今年の産業精神衛生研究会は今年のアンケートで希望の多かった発達障害をテーマに開催しました。講師は現場で活発に活動されている大阪信用金庫・コーポレートヘルス(株)小澤珠美先生、高尾メソッドで有名な岡山大学高尾総司准教授にお願いしました。

小澤先生は保健師として様々な規模の事業場の経験を踏まえたお話でした。発達障害に基づく問題に対し、野口雄二氏の「問題の外在化」という解決手法を紹介されました。また、障害というより偏りと理解したほうがよく、得意分野を生かすということも。

高尾先生からは、前半は「健康管理は従業員にまかせなさい」のダイジェストとして業務的健康管理と医療的健康管理の区別すること、大原則として職場は働く場所であり、通常勤務、即ち業務ができ、就業規則が守れ、健康上の問題はなく業務により健康上の問題が生じないことが就労条件とのことで、労働契約に従っており、病名や重症度ではなく、仕事ができるかどうかで判断すべきとされました。後半は発達障害について、採用後に発覚することが多く、ASDが過剰に認識され、むしろADHDが多数見逃されているとのこと、指導には限界があり、合理的配慮が必要であるが、特別扱いとしないとのことでした。

座長をお願いした忽那一平先生はウェブ質問サービスのslidoを活用し、参加者の質問・意見もスマホで全体にすぐ共有でき、活発な議論ができました。さらに先生のアイデアでLINEのオープンチャットを利用した職場のメンタルヘルス対応ネットワークも構築され、これらが楽しみです。



若手活性化プロジェクト

若手活性化プロジェクト

住友電設株式会社 健康管理室
室長・保健師
喜多岡 蓮美

2024年10月19日に第4回目となる若手活性化プロジェクト企画を開催しました。若手の方にもっと気軽に参加いただきたいとの思いから「こんな研修あったかな！困りごとを語らう会&バラ園ウォーキング」という気軽なテーマにしました。蓋を開けてみると、総勢36人とこれまでで一番多くお集まりいただくことができ、20代・30代が半数以上を占めました。事前アンケートで参加者の日常の困りごとを集めたところ25のテーマが集まりました。テーマを絞ってじっくり話し合った方が良いのではという意見もありましたが、今回はせっかく出していたので、全25テーマについて5グループに分かれて5つずつ話し合っていました。さすが話を聴くプロの集団、温かい雰囲気の中で交流ができ、自分が困っている内容を同じ職種の経験者や、他の職種からアドバイスをもらうことで多くのヒントが得られたという感想がありました。他の人の悩みそのものが参考になることもあるようです。今回は、弊社本社の会議室を利用しプチ職場巡視（見学）も行いました。他社の職場、食堂の雰囲気や、産業保健スタッフが働いているイメージにつなげていただいたようです。当日は残念ながら荒天のためバラ園ウォーキングは中止になりましたが、懇親会ではスタッフを含めて37人が参加しさらに話が盛り上がりました。2025年度も開催予定ですので、多くの自称若手のご参加をお待ちしています。おひとり様大歓迎です☆つながりの輪を広げていきましょう！

第4回若手活性化プロジェクトイベントに参加して

株式会社健康管理室
遠藤 瑞記



若手活性化プロジェクトイベントに今回初めて参加しました。若手が困りごととして挙げた25のテーマについて、5グループ5テーマずつディスカッションをしました。いずれのグループにおいても「多職種・他部門連携」がキーワードとして挙がっていましたが、各々違う視点での発表となったことは大変興味深かったです。開催場所の見学では、自社にはない設備や企業風土を垣間見ることができ、貴重な体験になりました。懇親会では、本イベントの裏話や参加された方のお人柄も知ることができ、充実の1日になりました。幹事や実行委員の皆様、住友電設株式会社健康管理室の皆様、このような学びと交流の場をありがとうございます。工夫された企画で安心して参加できました。若手の方へ、次回開催される際は、ぜひ一緒に参加しましょう。



若手活性化プロジェクト「第3回わかりやすい統計講座 実践編」に参加して

株式会社りそな銀行
榎原 彩



大阪公立大の林教授による毎年人気の統計講座ですが、今年は実際に統計ソフトStataを用いて多変量解析の方法について学びました。日頃、基本的なPC機能での作業を行っている私にとって、統計ソフトを実際に使ってみる貴重なチャンスでした。

講義では、統計学的にデータをとらえ証明していくことで健康リスクを明らかにし、予防対策につなげていくことを学びました。また、統計ソフトの操作方法については講師陣の先生方に手取り足取り教えていただくことができ、一瞬で解析結果が得られることは、普段地道な作業を行っている私にとっては爽快でした。

講座後の懇親会も横の繋がりができ、楽しい時間を過ごすことができました。

産業保健現場で自分にできることは何かを模索する中、行き詰まりを感じることも多々ありますが、研修に

参加することで前向きな気持ちになれ、学びも深められると考えています。来年度の講座も今からとても楽しみです。



会員の声



休息のお手本

関西医科大学看護学部

堀内 寿美子

我が家には7歳になる猫がいます。リクといいます。以前飼っていたウサギの干し草を買いにペットショップへ行ったときに偶然出会ったのがリクです。毎朝私が朝食を始めると足元にやってきます。大好物のおやつをもらうためです。朝食後に私の気まぐれでおやつをあげた翌日から、リクは待ち構えるようになりました。腕や足にスリスリと頭や身体をこすりつけ、おやつを催促します。私が食べ終わり席を立つと同じように動き出し、私の顔を見上げて鳴くのです。リクは普段は滅多なことがない限り鳴きません。リクの声を聞ける数少ないタイミングなので私は聞き漏らすまいと意識を集中させます。鳴き声にはいくつかバリエーションがあります。はっきりとした「にゃー」、短めの「にゃ」、時には口元は動いているけれど聞こえないいわゆる「エアにゃ」などです。

本当は家を出るカウントダウンが始まっている時間なのですが、リクにおやつをあげるという一大儀式だけは心を落ち着け、毎朝のリクの鳴き声や表情、食べっぷりを頼りに、リクのコンディションや気持ちを想像することを楽しんでおり、慌ただしい朝ということさえ忘れます。おやつを食べたリクは、ソファの背もたれかリビングのベランダ入口に寝そべり、空を飛ぶ鳥や音がする方向に耳を動かして外を眺めたり、うとうと眠り始めたりします。学校や職場に向かう準備で忙しく動き回っている人間と時の流れが違うのんびりとマイペースな猫という対照的な風景が我が家の毎朝の景色です。

せかせかと動き回る私には、リクの自由奔放さは、見落としてしまっている大切なものがあるんじゃないのとか、もう少し落ち着いていきなよといったメッセージにも解釈される日があります。人に休息の必要性を話しながら、自分のことを棚の上にあげていた私にとっては、ひよんなことからやってきた猫がかげがえのない癒しであり、ふと立ち止まらせてくれる休息のお手本のような存在です。



多様な経験を基に安全未来を創る「産業衛生の新たな挑戦」

セーフティ・フューチャー ラボ

廣瀬 雅康

近畿地方会の皆様、こんにちは。2024年6月から日本産業衛生学会の近畿地方会技術部会に所属することとなりました廣瀬雅康と申します。

私は、新卒から食品添加物の製造・販売を行う化学メーカーで12年間勤務し、総務人事部門にて総務全般の業務や人事制度構築運用などを経験し、その後、USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）にて22年間にわたり、人事や福利厚生制度の構築、労働安全衛生管理、THPの推進、全社のリスクマネジメントの再構築、リスクに基づく損害保険適正化まで幅広い業務に携わりました。USJはテーマパークとして多岐にわたる業種を抱え、前線の運営や接客業務に加え、バックヤードには建設・設備・機械等のメンテナンス、飲食の調理や製造、清掃、警備、ショー演出を行うプロダクション、商品開発、

マーケティングほか一つの街の機能を持つような特殊な事業所で、多様な雇用形態をも伴う労働環境が存在します。労働安全衛生の活動では労働安全衛生マネジメントシステムを活用し、安全衛生計画及び実施、職場改善を進めるとともに、THPの推進を通じて従業員の心身の健康保持増進にも取り組み、メンタルヘルス支援や健康診断後のフォローアップ、働きやすさを向上させる職場環境の整備など従業員一人ひとりが持つ力を最大限に発揮できる環境づくりを目指してきました。

部会では、まだ具体的な活動を行っていませんが、部会を通じて産業衛生に関する知見をさらに深めるとともに、部会等の皆様との情報交換を通じて新たな視点を得るなど今後も学びを続けながら、これまでの経験を基に、個人事業主として2024年4月から独立開業すべく労働安全衛生に関する教育や支援、ISO審査員活動も視野に入れて準備を進めています。これからは各企業への支援や部会では実践的な解決策を提案するなど安全で快適な労働環境の推進に産業衛生の発展に寄与できるよう努力したいと思っております。今後共どうぞよろしくお願い致します。

産業医部会からのお知らせ

第1回産業医アソシエイトコースのご案内

この度、産業医部会主催の新たな研修会である産業医アソシエイトコースを企画しましたので、ご紹介します。

本コースでは、参加者が、産業医としての専門性を認識し、問題解決への考え方や取り組み方を学ぶことで、単に教科書的・機械的に業務をこなすだけでなく、産業医実務の奥深さや面白さを体験することができます。本コースが、日々の産業医業務をより良いものになりたい、さらに学びを深めたいといった参加者のモチベーション向上につながってほしいと思います。ご参加をお待ちしております。

日時：2025年6月28日（土）10：00～18：30

場所：新大阪丸ビル新館

開催方法：現地開催（オンライン開催等は実施しません）

対象：産業衛生専攻医または産業医歴の短い医師（産業医歴5年以内、日本産業衛生学会員に限る）

プログラム：講義、グループワーク、実務相談会

受講料 産業医部会員：12,000円、

非部会員（学会員の医師）：18,000円

定員：36名（募集人数を超えた場合は、参加をお断りする場合があります）

申し込み方法等の詳細は産業医部会ホームページにある産業医アソシエイトコース（産業医Aコース）のページ <https://sangyo-ibukai.org/associate.html> をご確認ください。

株式会社リードウェル
企画運営委員長 深井 恭佑

大阪開催実施協力：2025年6月

(3) 幹事会：3回以上開催予定

(4) メールマガジン配信（随時）

(5) 近畿産業保健看護部会活性化及び、業務効率化

(6) その他：第99回産業衛生学会準備参画、産業保健専門家制度単位取得等支援

○産業保健看護職で部会未入会の皆様

産業保健看護部会では部会員を募集しています。（活動費年2,000円）

部会は学会内の保健師・看護師、約1,600名の組織です。主な活動は現場の実践活動や研究の支援・最新情報の発信・部会企画の各種研修会の参加費優遇などのメリットがあります。この機会に是非入会をご検討ください！

産業保健看護部会 HP：

https://sangyo-kango.org/wp/?page_id=33

近畿産業保健看護部会長 鈴木 純子

産業歯科保健部会からのお知らせ

今年度より公益社団法人日本歯科医師会との連携での活動がスタートしています。産業歯科保健の周知と裾野を広げるための「超入門編」動画を作成し、2024年7月より、日本歯科医師会 HP https://www.jda.or.jp/occupational_health/introduction.html と日本産業衛生学会産業歯科保健部会 HP <https://sangyo-shika.jp/> に掲載されておりますので、是非ご覧下さい。特に最後の座談会は東京の日本歯科医師会館で急遽収録しましたが、ざっくばらんでわかりやすいと好評です。

日本歯科医師会の産業歯科医研修会を受講する方や歯科専門職だけでなく、産業医・保健師等多職種にも関心を持っていただけることを目的としています。「公益社団法人日本産業衛生学会100周年を見据えたミッションと重点活動事項」の「13. 会員を含めた産業衛生従事者の実践力向上に繋がる情報の発信」「14. 産業衛生に関わる学会員以外の人材の資質向上の支援や教育機関における産業衛生教育への貢献」として、来年度以降も継続、発展させていく予定です。

また部会が協力している厚生労働科学研究「職域での歯科口腔保健を推進するための調査研究」において、産業歯科保健に取り組んでいる事業所の好事例集が作成されました。https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202322003A-sonotal.pdf

皆様の事業所での取り組みをする上での参考になることと思います。

多職間での共通認識、連携が広がり、産業保健において歯科がお役にたてますことを祈念しています。

産業歯科保健部会長

近畿産業歯科保健部会副部会長 安田 恵理子

産業保健看護部会からのお知らせ

○部会員の皆様

いつも部会活動にご協力いただきありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。2025年度も会員の皆様の知識やスキルアップのために活動いたしますので積極的なご参加、ご支援をお願いいたします。

来年は第99回日本産業衛生学会が大阪で開催されます。現在は開催に向け準備を進めています。今年度は学会開催準備のための1年になりそうです。産業保健看護職向けの企画も準備いたしますので皆様からご意見がありましたらお知らせください。専門家制度登録されている方はボランティアの募集もありますので、「社会貢献」取得に活用ください。みんなで大阪開催を盛り立てていきましょう。

【2025年度の主な活動計画】

- 定例研修会開催：2026年1月（詳細未定）
- 産業保健看護専門家制度「登録者認定試験」

編集後記

昨年は災害に振り回された1年でした。元日に発生した令和6年能登半島地震で正月気分は吹っ飛び、8月8日には日向灘地震が発生、南海トラフ地震臨時情報が発表され多方面に影響の出たお盆休みとなり、さらには8月31日に予定されていた第64回近畿産業衛生学会も台風10号の直撃により延期を余儀なくされました。

関係各位のご尽力により12月22日に学会を開催いただきましたこと、心から感謝申し上げます。

「災害に立ち向かう産業保健」ではありますが、できることなら今年こそは災害のない1年となることを祈るばかりです。（石原 宗和）

編集委員（50音順）

相羽 洋子	石原 宗和	井上 幸紀(担当理事)
清原 達也	谷池 正行	村田 理絵(当番編集長)